

あ と が き

この報告は、当センターの地震防災に関する研究報告類（耐震実験，強震観測を除く）としては21番目のものである。既刊の研究報告類の目録は次のとおりである。

ただし、逐次刊行物の誌名は、セ研報：国立防災科学技術センター研究報告；セ研速：国立防災科学技術センター研究速報；総研報：防災科学技術総合研究報告；総研速：防災科学技術総合研究速報；防研資：防災科学技術研究資料，等の略語を用いて記載する。

- 1) 新潟地震被災建物の空中写真による傾斜測定の研究，セ研報，第3号，p. 15-40，昭和44年8月。
- 2) 浅井戸における地震波の深さによる変化，セ研報，第5号，p. 9-24，昭和46年3月。
- 3) 富士山坑道の微動調査，セ研速，10 p.，昭和40年9月。
- 4) 渥美沖人工地震の作手における観測と周波数分析—人工地震波の周波数分析（I）—，セ研速，第5号，26 p.，昭和42年3月。
- 5) 松代群発地震観測資料（第1報）（英文），防研資，第1号，140 p.，昭和42年3月。
- 6) 1968年十勝沖地震災害調査報告，防研資，第5号，52 p.，昭和44年3月。
- 7) 空中写真による地震災害調査法の研究，防研資，第6号，30 p. 附図3，昭和44年2月。
- 8) 松代群発地震観測資料（第2報）（英文），防研資，第7号，145 p.，昭和44年3月。
- 9) 新潟地震防災総合研究報告，その1，総研報，第11号，72 p.，昭和41年3月。
- 10) 新潟地震防災総合研究報告，その2，総研報，第12号，89 p.，昭和41年3月。
- 11) 松代群発地震に関する特別研究（第2報），総研報，第18号，121 p.，昭和44年3月。
- 12) 地震時における軟弱基礎地盤の振動性状に関する現場実験研究（第2報），総研報，第19号，29 p.，昭和44年3月。
- 13) えびの・吉松地区地震に関する特別研究，総研報，第26号，201 p. 附図1，昭和46年3月。
- 14) 松代群発地震に関する特別研究，総研速，第5号，89 p.，昭和42年3月。
- 15) 地震時における軟弱基礎地盤の振動性状に関する現場実験研究，総研速，第6号，22 p.，昭和42年3月。
- 16) 国立防災科学技術センター地震年報（英文），第1号，25 p.，昭和45年9月；第2号，9 p.，昭和47年3月；第3号，12 p.，昭和48年3月。
- 17) 空中写真による地震災害調査法の研究（英文），A4判，36 p.，昭和47年3月。
- 18) 第四紀地殻変動図，図版6枚，昭和44年8月。
- 19) 第四紀地殻変動図説明書（英文）（現在印刷中）
- 20) 第四紀地殻変動文献抄録集（現在印刷中）
- 21) 四紀地殻変動図説明書（概要）14 p. 昭和48年3月。

付記 特別研究促進調整費による防災科学技術に関する総合研究で国立防災科学技術センターがその総合推進を行ってきた課題については、設立以来研究課題ごとに防災科学技術総合研究報告および同速報としてとりまとめ、発行してきたが、本号をもって科学技術庁研究調整局に移管されることになった。

したがって、総合研究の全ぼうについて知りたい向きは、別に発行される報告書を利用されたい。ただし、技術的論文はそれぞれのテーマごとに各分担研究者により所属機関や関係学協会等の機関誌に発表されるものと思われるので、関心ある一般研究者はそれらから研究の成果を知って欲しい。

特に地震防災の部門では、新潟地震以来、関係省庁の研究者の方々には時間的余裕のない緊急研究の多い中、有益な研究報告を書き、当総合研究報告を育てていただいた。その結果、各号とも内外の研究者に広く活用されるにいたりました。ここに地震防災に関するテーマについて編集に終始たずさわってきた者として、これまでの執筆者の方々に深い感謝をささげます。